

令和7年度 第1回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和7年4月22日（火）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所 14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、佐藤 貴
大橋 信之、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、阿部 勝彦

1 感染症に関する最近の情報

(1) 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスの公表について（資料1 P 1～2）

感染症法施行規則の一部改正により、急性呼吸器感染症が五類感染症に指定され、令和7年4月7日から定点把握疾患として、急性呼吸器感染症（以下「ARI」という。）サーベイランスが開始された。

2025年第15週（4月7日～4月13日）の急性呼吸器感染症患者報告数は、国のシステム不具合により報告ができなかった1医療機関を除く33医療機関から1,773例の報告（定点当たり53.73）があった。

病原体検出情報については、検査結果がまとまり次第、感染症週報及びホームページにおいて公表することとしているが、具体的な公表内容については現在検討中であり、今後、医療機関に対して効果的な情報還元ができる体制整備に努めていくこととする。

（委員意見）

- ・ 定点医療機関の負担は増えるが、通年の発生状況を踏まえて評価する必要がある。
- ・ 4月に病原体定点医療機関から提出された検体の病原体検出状況は注視したい。

(2) 国内における麻しんの発生状況について（資料1 P 3～40）

2月以降、海外からの輸入症例や当該患者からの二次感染が疑われる事例等、全国で麻しん患者の発生が相次いで報告されており、2025年は第15週（4月7日～4月13日）までに累計66例の報告があり、過去5年の患者報告数を上回った。

本市では市民に対し、海外渡航時の麻しんの予防接種歴の確認と、2回の接種を受けていない場合の渡航前の予防接種を呼びかけている。併せて、帰国後に発しんや発熱等の麻しん様症状を呈した場合は、事前に電話連絡の上、医療機関を受診することについても呼びかけている。

今後、人の移動が活発化するゴールデンウィークを迎えるに当たり、医療機関に対する診察時の留意事項と、市民に対するホームページ・SNS等での感染予防対策の周知徹底を行うなど、注意喚起を行うこととしている。

（委員意見）

- ・ ゴールデンウィークにより国内外の人の往来が増えるため、今後の発生動向に注視する必要がある。

(3) 百日咳の発生状況について（資料1 P 41～57）

百日咳の患者報告数は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行が始まった2020年以降、低い水準が続いていたが、昨年の全国における患者報告数は春から増加し続けている。今年の患者報告数は、2025年第13週（3月24日～3月30日）時点で累計4771件（速報値）であり、昨年1年間の報告数をすでに上回っている状況である。本市においても2025年第15週（4月7日～4月13日）までに累計78件の報告があり、全数把握となった2018年以降で過去最多であった2019年の95人を大きく上回るペースで増加している。

また、近年、世界的にマクロライド系抗生物質に耐性を示す百日咳菌（以下「MRBP」という。）が出現し、特にアジア地域でその拡大が懸念されている。日本小児科学会は、国内においても、耐性菌の報告が増加し、大阪では渡航歴のない3症例から分離された百日咳菌が耐性菌であり、鳥取でも9例から分離された8株が耐性菌、沖縄でも集中治療を要した2例が報告されており、耐性菌の増加に注意が必要であると提言している。

学校保健安全法では、特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌薬投与が終了すれば登校可能とされているが、MRBPの可能性もあることから、咳症状のある人は、マスクを着用するなどの感染予防対策を講じるとともに、症状が続く場合は、早期に医療機関を受診することが重要である。

（委員意見）

- ・ 今後も患者報告数が増加することが懸念されるため、引き続き発生動向に注視する必要がある。
- ・ 定期接種対象者である乳児については、早めにワクチン接種する必要がある。

2 3月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和7年3月分	令和7年4月分
		報告日 3/3~4/6	報告日 4/7~4/16 現在
2類	結核	11人 (結核 10人, 潜在性結核 1人)	2人 (結核 1人, 潜在性結核 1人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1人(3/26)	
	細菌性赤痢	1人(3/4)	
4類	E型肝炎	1人(3/6)	
	A型肝炎	1人(3/21)	
	デング熱	1人(3/4)	
	レジオネラ症	4人(1人(3/3), 1人(3/10), 1人(3/31), 1人(4/2))	
5類	アメーバ赤痢	1人(3/10)	
	ウイルス性肝炎	1人(4/2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		1人(4/10)
	急性脳炎	2人(1人(3/21), 1人(4/1))	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人(3/5)	
	後天性免疫不全症候群	2人(1人(3/18), 1人(4/1))	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1人(3/10)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	6人(1人(3/14), 1人(3/24), 1人(3/31), 2人(4/3), 1人(4/4))	
	水痘 (入院例に限る。)	1人(4/1)	
	梅毒	11人(1人(3/3), 1人(3/7), 1人(3/12), 1人(3/13), 1人(3/14), 1人(3/21), 2人(3/25), 2人(3/27), 1人(4/2))	1人(4/8)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1人(3/12)	
	百日咳	35人(1人(3/3), 4人(3/5), 1人(3/7), 3人(3/10), 2人(3/11), 4人(3/15), 1人(3/19), 1人(3/21), 1人(3/22), 1人(3/24), 1人(3/25), 2人(3/26), 1人(3/27), 1人(3/29), 1人(3/31), 1人(4/1), 5人(4/2), 2人(4/3), 1人(4/4), 1人(4/5))	30人(5人(4/7), 3人(4/8), 5人(4/9), 1人(4/10), 4人(4/11), 1人(4/12), 4人(4/14), 4人(4/15), 3人(4/16))

() は届出日

4 新型インフルエンザ等行動計画の変更について（資料4）

新型インフルエンザ等対策特別措置法（以下「特措法」という。）に基づき、国、都道府県及び市町村は、新型インフルエンザ等の発生に備えた行動計画を作成することとされている。

今般、国は、新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、令和6年7月に政府行動計画の改定を行い、県は、令和7年3月に県行動計画の改定を行っており、これを受け、本市においても、県行動計画に基づき、本市行動計画の改定（変更）を行う必要がある。

また、行動計画を変更するときは、あらかじめ、感染症に関する専門的知識を有する者その他の学識経験者の意見を聴かなければならないこととされていることから、広島市感染症対策協議会において、本市行動計画の変更に係る意見徴収を予定している。

5 その他《公開》

次回開催予定日 令和7年5月19日（月） 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、3月は2,546人で、前月比0.87とやや減少した。

伝染性紅斑、感染性胃腸炎（ロタウイルス）は大きく増加、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎はやや増加、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎はほぼ横ばい、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は減少、インフルエンザは大きく減少した。

(2) 特記事項

- 急性呼吸器感染症（ARI）は、第15週（4月7日～13日）に定点当たり53.73人の報告があった。4月7日から開始した急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスは、症例定義に一致する患者数を把握する症候群サーベイランスで、流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向を把握すること、また、未知の呼吸器感染症が発生し増加し始めた場合に迅速に探知することを目的としている。
- 感染性胃腸炎は、第15週に定点当たり13.36人と多い状況である。3月以降、高齢者関係施設等で集団発生が5件報告されており、集団生活の場では特に注意が必要である。
- 感染性胃腸炎（ロタウイルス）は、増加傾向で、第15週に定点当たり1.83人の報告があった。前述の集団発生のうち、1件はロタウイルスが原因と報告されており、注意が必要である。手洗いやオムツの適切な処理など、感染予防対策の徹底が重要である。
- 伝染性紅斑は、第15週に定点当たり0.59人と増加傾向である。全国でも増加しており、注意が必要である。
- 百日咳の今年の累計報告数は78件となった。昨年8月以降報告数が増加しており、2018年に全数把握疾患となってから最多の報告があった2019年（同時期17件）を大きく上回るペースで推移している（図）。1歳以下の乳児、特に生後6か月以下では重症化リスクが高く、注意が必要である。予防にはワクチン接種が有効であり、定期接種対象者は早めに接種することを推奨する。

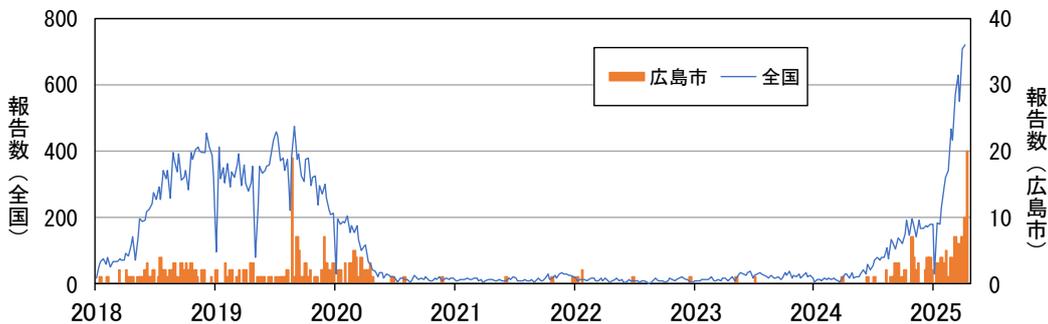


図 百日咳の週別報告数の推移

(3) 3月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核11件（患者：10件、潜在性結核：1件）
- 3類感染症：細菌性赤痢 1件、腸管出血性大腸菌感染症 1件
- 4類感染症：E型肝炎 1件、A型肝炎 1件、デング熱 1件、レジオネラ症 4件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件、ウイルス性肝炎 1件、急性脳炎 2件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件、後天性免疫不全症候群 2件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 6件、水痘（入院例に限る。） 1件、梅毒 10件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件、百日咳 35件

(4) 今後の流行予測

伝染性紅斑、感染性胃腸炎（ロタウイルス）・・・【流行始まり】

RSウイルス感染症、感染性胃腸炎・・・【流行中】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症・・・発生動向に注意が必要である。

百日咳・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

3月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	2月	1人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 56 型	1月	2人
その他の消化器疾患 (腸重積症)	* アストロウイルス * サポウイルス	1月	1人

* : 複数病原体検出例

4人の患者から4種類のウイルス5株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス56型2株、インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型、アストロウイルス、サポウイルス各1株であった。

5類感染症定点情報
(令和7年3月解析分)

1. 週報対象(第10週～第14週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		124	3.46		11	ヘルパンギーナ		-	-	
2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		297	8.31		12	流行性耳下腺炎		-	-	
3	RSウイルス感染症		126	5.51		13	急性出血性結膜炎		-	-	
4	咽頭結膜熱		35	1.52		14	流行性角結膜炎		41	5.14	
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		222	9.72		15	細菌性髄膜炎		-	-	
6	感染性胃腸炎		1,571	68.78		16	無菌性髄膜炎		-	-	
7	水痘		10	0.44		17	マイコプラズマ肺炎		19	3.17	
8	手足口病		4	0.17		18	クラミジア肺炎		-	-	
9	伝染性紅斑		37	1.62		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		26	4.33	
10	突発性発しん		18	0.79							

2. 月報対象(3月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		28	3.11
2	性器ヘルペスウイルス感染症		13	1.44
3	尖圭コンジローマ		6	0.67
4	淋菌感染症		10	1.11
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		15	2.50
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		1	0.17

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和7年3月分)

第10週～第14週(3月3日～4月6日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	11	34	1,271	3,328
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	3
	16 細菌性赤痢	1	1	6	12
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	2	94	328
	18 腸チフス	-	-	3	7
	19 パラチフス	-	-	2	2
	20 E型肝炎	1	1	67	131
四類	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	1	1	18	41
	23 エキノコックス症	-	-	1	5
	24 エムボックス	-	-	1	1
	25 黄熱	-	-	-	-
	26 オウム病	-	-	3	3
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-
	28 回帰熱	-	-	-	1
	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	30 Q熱	-	-	-	-
	31 狂犬病	-	-	-	-
	32 コクシジオイデス症	-	-	-	1
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	2
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	4
	40 つつが虫病	-	-	5	36
	41 デング熱	1	3	14	40
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	2	3
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	-	2	6
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	-
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	4	5	165	439
	62 レプトスピラ症	-	-	1	1
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	1	1	43	117
	65 ウイルス性肝炎	1	1	30	59
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	5	183	491
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	3	8
	68 急性脳炎	2	3	42	195
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	2	6
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	12	42
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	8	140	455
	72 後天性免疫不全症候群	2	2	77	197
	73 ジアルジア症	-	-	3	7
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	58	218
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	3	20
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	6	14	409	1,329
	77 水痘(入院例に限る。)	1	1	53	133
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	10	34	1,318	3,453
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	9	40
	81 破傷風	-	-	8	21
	82 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 パンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1	14	26
	84 百日咳	35	58	3,287	5,652
85 風しん	-	-	3	5	
86 麻しん	-	-	57	66	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	4	